

あとがき

昭和四十九年三月大豊町史の上巻ともいべき古代中世編が刊行されて七年を経た同五十六年に、下巻となる近代現代編の上梓が決定された。しかし二年間の準備期間があったので、実際に調査及び資料収集の作業に入っただのは同五十八年四月からであった。

以来十一名の編集委員が資料の収集整理を進める一方で十項目にわたる編集基本方針をたて、各委員の分担を決めて執筆作業に入った。

その編集方針のうちで、特に町民のための町史にするため、文章表現、常用漢字、現代仮名づかいなどに留意して親しみやすいものとし、また、上巻発行のとき批判のあった地域の格差をなくするよう格別の配慮がなされた。しかし資料の存在が一部地域に偏っていると記述もこれに影響する場面があるのもやむを得なかった。

何分、県下でも例の少ない町内の素人ばかりの十一人による合作は、分担を細かく分けていたとはいえ重複する箇所や、反対に欠けたりしている所が多かった。また文章表現や文態もまちまちであるため四人の監修委員を選任して過不足を補いつつ、史実の再調査、文章表現、誤字脱字などにまで手を加えた。それを更に石原が担当して原稿と原稿の間に繋ぎの文章を入れたり、文態を統一するため加筆するなど再校正を行った。

こうして出来上った原稿を県立図書館の広谷喜十郎先生に校閲して頂き、再び手直しを加えて本年一月末に脱稿の運びとなった。

この巻の内容は藩政時代の終わり明治維新への移行期から筆を起こし、昭和五十五年までを原則としたが名簿など簡単なものについては同六十一年まで記したものもある。

上巻（古代近世編）が口絵その他合わせて約八百頁であったので、せめて九百頁位はと思っていたが書き初めて見ると、史に誌的なものまで加えて千二百頁を超える膨大なものとなった。想を起して六年とはいえ、実際には資料収集に一年、執筆に二年、監修校正に一年と短期間であったため暗中模索状態の私達には難行苦行の連続であった。

まだまだ推敲する個所が多く、より完全なものを求めて焦り、時日の不足を嘆いていたとき、広谷先生がおっしゃられた「町史は悠久な時の流れの中の一里塚である。」という詞に忽然と得る処があった。

ともすれば挫けようとする私達を絶えず支え、励まして下さった地元の御協力者と貴重な資料を提供して下さいました。

また参考にさせて頂いた文献については大体文中でそれぞれお断りしてあるものの、脱落があれば申し訳ないので一括末尾に記して厚く感謝申しあげたい。このほかの資料集、古文書類、新聞、雑誌、日記等は文中の舌代をもってお札に代え、ここには割愛させて頂いた。

最後に本書の印刷製本にあたり上巻のときから終始一貫して献身的な協力を惜しまれなかった第一法規出版株式会社の方々にも厚く感謝の意を表して筆を擱きたい。

昭和六十二年七月一日

文責 石原正恒 記

参考文献

(書名)

(編著者名または発行所名)

- 高知県史
 高知県史 近代編
 高知県百科辞典
 学制百年史
 近代高知県教育史
 戦後日本教育史
 日本歴史
 日本の歴史
 日本歴史シリーズ
 日本史叢書(産業史)
 近代日本史
 高知県警察史
 高知藩教育沿革取調
 明治維新教育史
 戦後高知県教育史
 高知県農地改革史
 昭和史事典
 日本医籍録
 通信六十年誌
 通信余話
 四国通信百話
- 高知県史編纂委員会
 高知県
 高知新聞社
 文部省
 高知県教育研究所
 大田堯著
 岩波書店
 中央公論社
 読売新聞社
 世界文化社
 山川出版社
 国文社
 高知県警察史編集委員会
 高知藩
 弘文館
 高知県教育委員会
 高知県農地改革史編集委員会
 講談社
 東京医事時論社
 通信六十年誌編集委員会
 通信教育振興会
 四国郵政局
- 本山町史
 郵便風土記
 四国銀行百年史
 高知相互銀行五十年史
 四国建設局二十年史
 四国鉄道七十年史
 高知県町村合併史
 高知県農業協同組合史
 高知県の林業
 森林組合制度の解説
 農業試験場六十年史
 蚕業普及の歩み
 農学大辞典
 土佐の冠婚葬祭
 耳たぶと伝承
 仏トンボ去来
 ふるさと早明浦
 四国電信電話事業史
 西峰の流れ
 土佐山田町史
 大野見村史
 文部省と日教組
 青少年団体史
 日高村史
- 本山町教育委員会
 通信新報社
 四国銀行
 高知相互銀行
 四国建設局
 国鉄
 町村合併史編集委員会
 高知県農協中央会
 高知県
 全国森林組合連合会
 高知県農業試験場
 蚕業改良普及事業二十周年記念会
 養賢堂
 岩井信子著
 桂井和雄著
 桂井和雄著
 川村千恵子
 四国電気通信局
 山本駿次郎著
 土佐山田教育委員会
 大野見村
 永井道雄著
 高知文教協会
 日高村教育委員会

町史資料提供者及び協力者録(順序不同)

。町外の部

和 田 隆 明 (大川村)
 重 森 幸 雄 (四国電力KK)
 徳 岡 昇 (土佐山田町繁藤)
 橋 本 景 行 (高知市)
 朝 倉 慶 景 (高知市)
 三 谷 啓 保 (高知市)
 佐 藤 幹 雄 (土佐山田町)

。町内の部

飯 田 正 福 (高須)
 小 笠 原 仁 (県立農試)
 宮 内 浪 男 (葛原)
 徳 弘 福 盛 (川口)
 宮 内 正 章 (葛原)
 森 下 明 利 (津家)
 吉 川 鶴 次 (杉)
 佐々木 昭十郎 (高須)
 門 脇 幸 男 (中村大王)
 本 山 茂 保 (立川)
 高 田 治 (NTT嶺北杉)

永 野 恒 祥 (杉)
 秋 山 徳 郎 (穴内)
 秋 山 邦 喜 (穴内)
 平 尾 俊 一郎 (礎谷)
 上 村 広 光 (上桃原)
 桑 名 賀 重 (梶ヶ内)
 都 築 茂 (大平)
 下 村 堯 基 (岩原)
 森 下 蕃 雄 (大久保)
 島 崎 茂 子 (西土居)
 三 村 悦 子 (上東)
 北 村 留 子 (柳野)
 高 木 叙 郎 (沖)
 三 谷 勇 太 郎 (大畑井)
 豊 永 英 光 (落合)
 上 村 賀 広 (柚木)
 三 谷 晴 喜 (大畑井)
 三 谷 武 昭 (川井)
 田 内 総 一 郎 (粟生)
 高 橋 康 彦 (落合)
 平 石 徳 太 郎 (落合)

大 坪 義 雄 (川井)
 門 田 淳 子 (大平)
 小 笠 原 秀 喜 (立野)
 上 村 嘉 子 (落合)
 大 家 正 仁 (東土居)
 豊 永 幸 利 (落合)
 吉 田 俊 郎 (東土居)
 森 本 一 男 (柚木)
 都 築 弘 身 (中屋)
 石 川 靖 朗 (立川)
 大 石 秀 喜 (粟生)
 秋 本 勝 美 (舟戸)
 小 笠 原 昭 八 (粟生)
 上 村 賀 廣 (柚木)
 石 川 博 文 (舟戸)
 山 崎 義 高 (馬瀬)
 杉 本 保 (杉)
 野 島 馥 (杉)
 其他 町内官公署



大豊町史編纂委員会

委員長 渡辺盛男

副委員長 北村寿夫

専門委員会

委員長 都築建康 (執筆監修)

副委員長 石原正恒 (執筆監修文責)

委員 都築貫一郎 (執筆監修)

上村聖文 (〃〃)

岡林大佐美 (執筆)

高橋俊郎 (〃)

徳弘秀綱 (〃)

久保 斉 (〃)

桑名啓三郎 (〃)

上村芳郎 (〃)

前田波穂 (〃)

永森信良 (教育長)

重森元亀 (前教育長)

山崎博資 (中央公民館長)

石川靖朗 (前中央公民館長)

今井達也 (中央公民館主事)

近藤育子 (筆耕)

事務局

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

〃

大 豊 町 史 近代現代編

昭和62年 9 月 1 日 発行

編 集 大豊町史編纂委員会

発 行 大豊町教育委員会

〒789-03

高知県長岡郡大豊町高須231番地

印 刷 第一法規出版株式会社

〒107 東京都港区南青山2-11-17

四国支社 760 高松市天神前4番33号